

三世代間交流会



【砂田橋学区】

■世帯数：2,975 世帯

■人 □：6,285 人

■面 積：0.490 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 20 人の実行委員からなる実行委員会を立ち上げ、世代間交流の場としての「三世代間交流会」を年に 1 回開催。
- ・ 催し物は実行委員会において内容を吟味・決定し、催し物ごとにリーダーを決定している。
- ・ 会場は砂田橋小学校体育館及び家庭科室、延べ参加者数は約 500 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧と、掲示板への掲示、学区連絡協議会及び自治会開催時に開催案内説明を行う。

【アピールポイント】

地域の全面協力参加体制が確立されており、例年幼児から高齢者まで楽しみ、深い交流の機会である。また、平成 24 年度で 19 回の継続開催ができています。

2 きっかけ、背景

目的は地域福祉の充実、世代間交流である。学区住民の約 80%が集合住宅に居住しており、核家族が多いこと、一人暮らしの高齢者世帯が急増していることを背景に、世代間交流を深めながら、昔からの智恵を高齢者から伝えてもらうことで地域の輪（和）を育成する事をテーマとしている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、
子ども会、老人クラブ、スポーツ推
進委員、ボランティア、OB・OG
計約70人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会、福祉推進協議会、
保育園・幼稚園・小学校、地域ボラ
ンティアなど

(3) 運営協力

小学校教職員、小中学校PTA委
員、地域老人会

4 実施のスケジュール

H24年4月 福祉推進協議会「福祉担当メンバ
ー決定」

5月

- ・開催実行委員会開催「実行委員
長選出」
- ・第1回実行委員会開催「催し物
案、吟味決定」催し物ごとにリ
ーダーを決定、概要予算決定

6月

- ・第2回実行委員会開催「準備状
況把握確認」資料作り・渉外・
借用依頼
- ・催し物ごとに準備推進

6月21日 開催準備実行委員・協力者35人
で催し物の「試し実施」

6月22日 三世代交流会 開催
終了後、反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加しているほか、住民の意識が高まっており、住民間の交流が深まっている。
- ・少子化の影響か、交流ふれあいの場として好評。
- ・催し物ごとに責任分担が確立し、相互の競いもあり工夫された催し物が充実。

(2) 苦労した点

- ・小学校と連携して平日に開催するため、現役世代の参画が少なく、高齢世代が運営主体であること。
- ・担い手の確保が難しい。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続のために、催し物の企画力が大切。
- ・担い手の世代交代が課題だが、体験してもらうことで育成できないか。
- ・活動資金の確保。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・三世代交流会は各世代のふれあい交流の場として重要な役割を担うイベントです。

